

新型コロナウイルス感染症拡大予防マニュアル

令和 2 年 7 月 20 日
東京都ドッジボール協会
理事長 長谷川 厚夫

下線部は、大会参加にあたってチーム内で周知、

基本方針

スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（令和 2 年 5 月 14 日 公益財団法人日本スポーツ協会 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）に基づき、運営側と参加者が一体となって、でき得る限りの感染防止対策を施し、安全に大会を進行する。

なお、本マニュアルは大会実施後、実態に合わせて随時改訂するものとする。

1. 主催者事前準備以下の事前準備物の数量については、主催者が大会等の規模に応じて判断する。
 - 不織布マスク
 - 手指用消毒液
 - 使い捨て手袋
 - アクリル板、透明ビニールカーテンなど

2. 募集・申し込み

感染拡大の防止のために参加者は以下の事項を遵守すること。なお、これを遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の関連から参加を取り消したり、途中退場を求めることがある。

- (1) 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。
 - ① 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状はある場合）
同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ② 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該従事者との濃厚接触がある場合
- (2) 参加者はマスクを持参しプレイ中以外は着用すること。
- (3) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- (4) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ 2 m 以上）を確保すること。（障がい者の誘導や解除を行う場合は除く）

- (5) 大きな声で会話，応援等をしないこと。
- (6) 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守，主催者の指示に従うこと。
- (7) 大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は，主催者に対して速やかに大会参加時の濃厚接触者の有無（有の場合はチーム・名前）等について報告すること。

3. 受付

主催者は，大会当日の受付時に参加者が密になることへの防止や，安全に大会を開催・実施するため，以下に配慮して受付事務を行う。

- (1) 受付窓口には，手指消毒剤を設置すること。
- (2) 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場，受付手続きをしない。
- (3) 受付箇所はアクリル板，透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。
- (4) 受付手続き者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと。
- (5) 受付を行うスタッフには，マスク，使い捨て手袋を着用させること。
- (6) 大会参加者は，以下のバイタルチェック表を提出すること。
 - ① 大会当日の体温，体調
 - ② 大会前 2 週間における以下の事項の有無
 - (ア) 平熱を超える発熱
 - (イ) 咳，のどの痛みなど風邪の症状
 - (ウ) だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - (エ) 嗅覚や味覚の異常
 - (オ) 体が重く感じる，疲れやすい等
 - (カ) 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - (キ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - (ク) 過去 14 日以内に政府から入国制限，入国後の観察期間を必要とされている国，地域等への渡航又は当該従事者との濃厚接触がある場合

4. 換気

換気の悪い密閉空間とならないよう，
換気設備を適切に運転する，定期的に窓を開け
外気を取り入れる等の換気を行う。

5. 観客席

大会参加者・観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとる場合がある。また、大声で声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること。

6. 弁当配布・容器回収昼食時の弁当配布及び回収を行い際は、以下に配慮して行う。

- (1) 受付窓口には、手指消毒剤を設置すること。
- (2) 受付を行うスタッフには、マスク、使い捨て手袋を着用させること。
- (3) 受付箇所はアクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。
- (4) 受付手続き者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと。
- (5) 弁当空き容器はビニール袋に入れて密閉して縛ること。

7. 進行

受付や事前練習など時間が決まっている動きがある場合は「密」が起きやすくなることから、全体的なタイムスケジュールに余裕を持たせた進行にする必要がある。

(1) 事前練習

「密」を防ぐため、体育館内での事前練習は行わない。各チーム予選 1 試合目のみ 1 分以内の練習にする。ただしスケジュール進行によっては行わないこともある。

(2) 開会式・閉会式挨拶及び連絡事項は、マイクを用いて選手等は観客席で待機したまま伝達する。

(3) 監督会議コート内で行うが、「密」を避けるため間隔を広く取り、マイクにて伝達する。

(4) 選手

① 選手はプレイ以外マスク着用。プレイ中はマスクを外し、個人用のマスク収容袋等で管理し他の者は触れないように対策を行う。

② プレイ以外の不要な接触は避ける（円陣、ハイタッチなど）

③ 試合中、飛沫予防のため大声での声掛けは避ける。

④ 試合前及び試合終了後の手指消毒（手洗い）・うがいの徹底

(5) チーム役員

① 常時マスク着用

② プレイ中の大声での指示禁止（飛沫防止）

③ ミーティング等は極力手短に。

(6) 審判員

- ① 当日朝、審判員用バイタルチェック表に体温等を記載。
- ② 出来るだけフェイスシールド着用（自作願います）
- ③ 主審は安全確認等人との接触があるため、使い捨て手袋を着用。
- ④ 手指消毒の徹底。
- ⑤ 旗の消毒の徹底（個人用の持込可）
- ⑥ 控室は原則荷物を置くのみ。
- ⑦ 昼食は時間を区切り分散させる。
- ⑧ 審判会議はコート内で実施。
- ⑨ 試合中は、原則笛・動作のみ。（やむを得ない場合は除く）

※安全確認，判定の結果説明など

※電子ホイッスルを使用する場合があります。

6 審及びオフィシャル以外はコート外で待機。試合終了時にコート内へ移動。

(7) 競技

- ① 全試合セットアップ・その場で解散。
- ② コート内での円陣など不要な接触を避ける。
- ③ ボールは、毎試合消毒したものを使用する。
- ④ 中待機，外待機はそれぞれ1チームずつ。（必ずマスク着用）
- ⑤ 試合終了後の選手の入替は一方通行。
- ⑥ 試合終了後，コートにモップをかける（消毒する）

(8) その他

- ① 試合前後、通路でのミーティングは行わない。 基本、観客席で行う。
- ② 試合中、指導者、及びベンチ入り選手はマスクを着用する。
- ③ ベンチ（座席）は間隔を空け配置する。ベンチ入り選手は間隔を空けてベンチ脇に立つ。

以上

第1版 令和2年7月20日

資料引用先

公益財団法人日本スポーツ協会

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

茨城県ドッジボール協会